



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第31回例会(3月3日)  
平成29年3月10日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)  
例 会 日 毎週金曜日12時30分~

会 長 駒木 進  
幹 事 海野 尚  
会 報 熊谷 隆司  
クラブ事務局 TEL(653)5682  
FAX(653)5622

ROTARY SERVING HUMANITY. '人類に奉仕するロータリー'…… ジョン F ジャーム



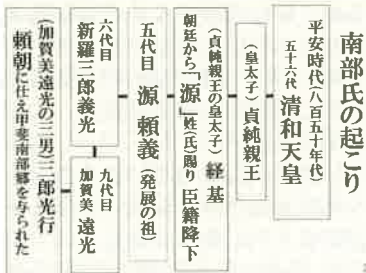
会友卓話

『続・意外と知られていない南部さんの系譜』

会友  
下山 寛様

○平井冽さんからの宿題  
八戸南部との関わり なんとも判りづらい

卓話の機会を戴き有難うございます。  
いつも同じことを言いますが、南部藩は800年の長い歴史があるので中にはあまり知られていない歴史があります。  
今日は前回の卓話で話し切らなかった南部氏の系譜の続きで、盛岡ロータリーの平井冽さんから生前に宿題として頂戴していた南部氏の系譜の続きをお話しさせていただきます。  
平井冽さんは、特に盛岡南部と八戸南部の関りについて拘りをもっていただいたので、今日はその辺について重点的に、前回の復習をしながら説明をしていきたいと考えています。



先日の卓話の復習を兼ねて簡単に「南部氏の起源」について触れてみます。  
南部さんの系譜については、先祖は今の山梨の甲斐から青森の南部町に入部したことは知っていますが、その先はあまり知られていません。南部氏の原点は天皇家から臣籍降した源氏一門の血筋を受け継いでおり、鎌倉時代から幕末まで武家集団(南部藩)として唯一800年も続いた名門です。

源氏とは平安時代(850年代)の56代清和天皇の第6皇子の貞純親王の子の経基という皇太子が朝廷から源氏の姓を賜って臣籍降下したのが源氏の始まりです。…したがって源氏の初代経基は清和天皇の孫にあたります。

また臣籍降下とは皇族が皇籍を捨てて民間におりる事で…今でいう皇籍離脱(昭和22年以降)の事です。

平安時代から臣籍降下した皇族は多く居りますがその多くが源氏を名乗り、その中で清和天皇の孫の経基から臣籍降下したのが清和源氏です。

経基から5代目に源頼義がいましたが頼義は武勇に優れ、朝廷の命で奥羽安倍氏の反乱(前九年役)を鎮圧するなどをして朝廷の信頼が厚く、それによって源氏の地位を高めて“河内源氏の祖”といわれております。

また経基から数えて10代目に甲斐加賀美の国(現加賀美市)に光行が居り、光行は加賀美遠光(源義光の孫源清光の四男)の三男でしたが、治承3年(1180)頃から始まった源平合戦の“石橋山の戦い”で頼朝に与して、その時の戦功で甲斐南部牧(山梨県南部町)を与えられ南部姓を称したのが南部氏の始まりとされています。

この時の石橋山の戦いとは源平合戦の中の一つで私どもは源平合戦というと“壇ノ浦の戦い”を思い出しますが、調べてみると源平合戦とは治承の乱(1180)から始まり寿永の乱(1182)の壇ノ浦の戦いまでの一連の合戦の事をいうようです。凡そ30程の合戦があってその最後が壇ノ浦の戦いで、この時に源氏が勝利をし平家が滅亡して源氏の時代に入ったわけでした。

臣籍降下した源氏は河内源氏以外にも多くの流れがあり、その流れがまた武家源氏と公家源氏に分かれています。(嵯峨、仁明、文徳、清和、陽成、光孝、宇多、醍醐、村上、冷泉、花山、三条、後白河、順徳、深草、正親町…など)

南部氏が優れているのは、並みいる多くの源氏の諸氏が滅んだ中でも、甲斐南部～糖部南部(青森南部町)～三戸南部～盛岡南部として幕末まで脈々と武士集団として生き残ったことではないでしょうか。政治力と家格の強みがあったからと見るができます。



南部氏全体の凡その流れを系図で説明します。清和天皇の皇子(息子)貞純親王がいて、その皇子の経基が源氏の姓を朝廷からもらい、皇籍離脱をして清和源氏の初代となります。

清和源氏5代の頼義の時に現在の岩手(胆沢城)で勢力を誇っていた安倍頼時(貞任の父)が中央政権の命令に背くようになったため、出羽(横手)の清原武則と共に安倍一族を滅ぼして(前九年の役)源氏の地位を確立し朝廷の信頼を得て源氏の祖といわれています。

清和源氏5代の頼義には、義家(頼義1男)と義光(頼義3男)がおり、右側6代目の義家が秋田の清原一族の内紛(後三年の役)の時に、清衡に加勢をして清原一族を滅亡させた義家で有名な八幡太郎義家です。義家の方の10代目が源頼朝に繋がります。頼朝が鎌倉幕府を起こしています。8代義光の子に義重がいて新田義貞、足利義光へつながり8代の義親からは木曾義仲がわかれています。9代義朝の子に頼朝と牛若丸義経がおり、この右側のグループが源氏の嫡流となった所謂河内源氏のグループとなっています。

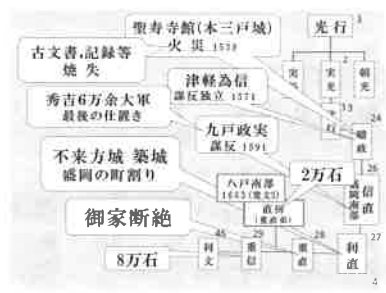
左側の方のグループが甲斐源氏といわれており、6代森羅三郎義光が甲斐源氏の祖といわれ義光の子の義清から武田玄玄が分かれて9代の遠光の子に南部氏の祖の10代光行がおります。

10代南部光行は、頼朝と年代も近く頼朝の御家人(家臣)として重鎮をなしています。系図から見てもお分かりのように頼朝とは血筋で繋がっており、光行の姉には大弐局が居て頼

朝の嫡男頼家の乳母を仕えるほどで一族と頼朝の間には大きな信頼があったようです。大弐局の名を調べましたが今のところ不明です。

右側の河内源氏10代頼朝が平泉4代藤原泰衡を打つときに左側の初代南部光行が戦い(奥州合戦)に参戦し、その時の恩賞として青森糠部(現在の南部町近辺)を拝領し、その後脈々と幕末まで続いた南部藩が誕生したわけです。

初代光行は甲斐の国(現山梨南部町)の南部郷に続いて青森糠部も拝領したことになります。頼朝の平泉藤原氏との奥州合戦は福島のア津賀志山(国見インター付近)で争われましたが、非常に大規模の豪が二重三重に掘られており、頼朝と藤原氏の戦いがいかに大きかったかを偲ぶことができます。



次にいよいよ平井冽さんから宿題の三戸南部と根城南部と八戸南部そして遠野南部の関りに入りますが…。

三戸南部について最近一部の学者による鎌倉時代の起源について色々と言われていますが、光行から始まり現在の46代利文さんへと繋がっているのは間違いのない定説であります。

盛岡南部は南部町～三戸～盛岡と800年も続いているので時代毎に色々なことが起きていますが、その中で特に大きな出来事といえば、24代晴政の時に聖壽寺館の焼失で多くの記録を失った事や、津軽為信の謀反独立、九戸政実の謀反などがあります。

特に九戸政実の謀反の時には豊臣秀吉が(惣無事令に違反をした)小田原の北条を征伐するために全国の大名に参戦を命じておりますが、南部藩では秀吉の命令と政実の謀反がかちあい、信直はそれに堪えて秀吉の小田原征伐に参戦して、その貢献を認められて奥羽七郡の朱印状を得る事が出来て大名の地位を確固たるものにしております。その時参戦を躊躇した葛西、稗貫、和賀、江刺、大崎氏達は秀吉の怒りにふれて改易されて消滅し、残党による小競合いがあったものの信直が勝利し更に秀吉の信頼を厚くして行くわけです。

小田原征伐の直後に九戸政実の謀反が起きま

したが秀吉が「最後の仕置き」として二戸に6万余の大軍を仕向けて政実を滅ぼした事など挙げる事が出来ます。

次にあげられるのは、28代重直の時に重直は嫡子を決めずに死去したことで藩中が大きく動揺したことがあります。重直は二男二女をもうけましたが早世しており、迎えた養子もまた死去してしまいます。幕府の掟で世継を決めずに死去した場合は御家断絶の決まりがあり、南部藩はここで御家を断絶させられております。

しかしその時に徳川の格段の計らいで幕府は南部藩を二つに分割し、重直の弟で七戸南部を継いでいた重信に10万石のうち8万石で南部氏を継がせ、中里家を継いでいた弟の直房に新たに八戸藩を興させて残りの2万石を与え藩は二つに分けられました。断絶の危機を乗り越えることが出来たのでした。これは先代利直公の徳川に対しての忠勤が報いられてのことで、余り世に出ていない事ですがこのような事実もありました。

さて次に左側の光行の子の実長の流れに入ります。南部藩初代光行が頼朝から青森糠部(南部町付近)を拝領したころの鎌倉時代初期(1180頃)は源平争乱で世情が荒れて民衆が不安を覚えて仏教に救いを求めた時があります。禅宗、浄土宗、日蓮宗などが競って仏教の教えを広め頼朝の鎌倉幕府は禅宗(臨済宗、曹洞宗)を保護奨励したとき、系図左側の実長はそれに逆らい日蓮に入信し、更に出家をして日蓮上人を自分の城(波木井)に招き庵室を建てるなどをしたため頼朝の逆鱗に触れ、以後実長の一族は代々幕府から疎外されるようになります。そのことが反対に幕府への反感となり、遂には実長から4代目の師行は新田義貞、楠木正成たちと共に鎌倉幕府討伐へ参加してしまいます。

足利尊氏、新田義貞の倒幕運動によって鎌倉幕府が滅亡(元弘・1333)したあと後醍醐天皇による「建武の新政」が行われましたが不成功に終わって瓦解し、足利尊氏が擁立した光明天皇の北朝と、新田義貞の擁立した後醍醐天皇の南朝が対立し南北朝時代(建武元・1334)に入ります。

南北朝時代に入るとすぐさま系図左側の実長から4代師行は南朝方の北畠顕家の家臣となり、甲斐の波木井(身延)から今の八戸根城に入部して根城に城を築き、根城南部(年代不詳)となったのでした。

三戸南部は鎌倉幕府滅亡と共に足利側の北朝に付き初代光行の子孫が南朝と北朝に分裂してしまいます。青森には南朝の根城南部と北朝の

三戸南部が隣同士で城を構えたことになりま。しかし南部一族の間では一切の争いはなく、このことは後々南部一族では大きく幸いております。

根城に城を構えた4代師行の活躍は目覚ましく北は津軽から秋田鹿角仙北地方を支配下におき三戸南部を凌ぐ勢力となっております。しかし南北朝時代も長くは続かず、やがて南朝は北朝に敗れ(明德3・1392)南朝側に付いていた根城南部8代政光は津軽、鹿角などのすべての領地を三戸南部に任せて甲斐の波木井に引き上げてしまいます。

その後根城南部の領地を引き継いだ三戸南部は糠部(青森南部)、津軽、秋田鹿角方面の領地を支配下に置いて勢力を拡大し三戸南部の基礎を築いていくことになったのでした。北朝が南朝を統一した事は三戸南部にとって歴史的に大きな出来事となったのでした。

その後三戸南部13代守行は將軍足利義満に願い出て甲斐に戻っていた政光を八戸に戻す許しを得て呼び戻し、再び政光は八戸根城に戻る(明德4・1393)ことが出来たのでした。根城に戻った政光はそれ以降は三戸南部を宗家とし、枝藩(分家)として三戸南部と行動を共にして三戸南部を支えております。

その後根城南部の13代政経が蠣崎の乱を制したあと、この時から根城南部が八戸氏を名乗りその後150年も続いております。

そのため時代的には多少のずれがあるが盛岡南部から分家した八戸南部と、根城南部から変化した八戸南部と二つの八戸藩実在したため混乱を来す原因となっております。

加えて今から説明をしますが根城南部から八戸南部になった方の八戸南部は、その後遠野に移封して遠野南部になりますが、その過程で何代かにわたり世継ぎが早世したため世継ぎが入り組み複雑化しております。

その流れを系図で説明しますと、根城八戸南部19代は直栄のとき、妻は三戸南部の名君26代信直の長女千代子ですが、[子に子々(ねね)という女の子が居りましたが]直栄は28歳(文



禄4年・1595)という若さで亡くなり嫡男が無かったため、弟の直政が根城八戸南部20代の家督を継ぎ、直栄の子々(ねね)を妻にしています。ところが20代直政も若くして亡くなり、またしても嫡男がいなかったため、妻の子々(ねね)が根城八戸南部21代を継ぎ、ここに(NHK直虎と同じように)女性の城主が誕生したのでした。[したがって子々(ねね)は信直の孫にあたります。]

21代を継いだ女城主子々は後に尼になり、名を清心尼と名乗り極めて立派な政治をしています。その後、娘の千代子(祖母と同名)に一族の新田氏の子の直義を娘婿に迎え22代としましたが、三戸南部利直の命で伊達領との領界を守るため遠野に移り、初代遠野南部となり

ます。南北朝時代から290年余も続いた八戸が遠野に移るのですから藩内は騒然として反対も多く混乱しましたが、清心尼は宗家利直は幕府の信頼も厚く混乱を抑えて遠野に移封し、陪臣として遠野地方を治め幕末まで続きました。

ところで何故平井冽さんが八戸南部に拘っていたのか。

江戸時代から紫波郡の上平沢と彦部には八戸南部と遠野南部の飛び地があり、その飛び地の管理を平井家で管理をしていたので、生前に平井さんが八戸南部を調べていたが解かりづらかった。そこで下山君…調べて卓話をしてくださいかと私に宿題を出していたのですが…遅くなってしまいました。

## 例 会 報 告

### 第31回例会 平成29年3月3日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 駒木 進会長
- ・君が代斉唱
- ・ソング 奉仕の理想
- ・ゲスト 下山 寛様(会友)
- ・会長報告 駒木 進会長
- ・皆出席バッチ 白石 茂君(28年)
- ・入会祝 白石 茂・坂本広行・勝雅行君。
- ・誕生祝 荻野忠良・近藤 駿・佐藤重昭君。
- ・結婚祝 勝 雅行・飯塚 肇・長野隆行・岩野法光・伴 亨・島山将樹君。

・幹事報告 海野 尚幹事

#### 【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.=3月15日(水)は、親睦会のため18:30~「洋風居酒屋コムソア」
- 盛岡西R.C.=3月23日(木)は、ファイヤーサイドミーティングのため18:30~時間変更
- 盛岡東R.C.=3月27日(月)は、通常昼例会を18:30~時間変更

#### 【ニコニコBOX】

- ◆近藤 駿君…緑内障は中途失明の原因の第1位となっております。日本においても40歳以上では20人に一人が緑内障といわれています。緑内障は早期発見して治療す

れば失明を防げます。皆さん検診を受けましょうということで世界緑内障週間が12日から始まりま。それに伴ってグリーンライトアップを12日から1週間5時から9時まで行います。盛岡では東北電力の九萬原支店長のおかげで鉄塔がグリーンにライトアップされます。それを見て皆さんも検診を受けてみる気になって下さい。また、開運橋もライトアップされます。よろしくお願ひします。

#### ●メークアップ

盛岡北R.C.=熊谷(祐)君。盛岡西R.C.=西田君。盛岡東R.C.=飯塚君。盛岡西北R.C.=佐藤(義)君。クラブ委員会=阿部・福田・熊谷(隆)・九萬原・嵐田・吉田(育)君。

出席報告 会員数/75名 出席数/41名 出席率/58.33% 前々回修正出席率/75.00%

#### プログラムの お知らせ

- ・3月10日(金) ゲスト卓話 千葉 信胤様(平泉文化遺産センター館長)  
「世界遺産関連から見た日本の特異性」
- 17日(金) 環境保全ポスター表彰式
- 24日(金) ゲスト卓話 永井 隆様(本誓寺(紫波町)住職)
- 31日(金) 特別休会

- 本号編集担当/阿部 広
- 次号編集担当/橋本 孝史